

2010.3.7 「民主党よ、政策論議の前に説明責任を果たせ！」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

今週も、参議院の予算委員会が継続して行われております。今週10日の水曜日の午後から、鳩山内閣の政治姿勢、つまりは政治とカネの問題について集中的に審議をすることが決まりました。午後1時から4時間、5時までの間、各党・各会派が審議をいたしますが、私も自民党を代表してこの集中審議に質問をさせて頂くことになりました。この様子は、NHKで国会中継されますので、ぜひご覧頂きたいと思っております。

これまでから、私は、鳩山総理と小沢さんの政治資金問題について追及してまいりました。本当に情けなく感じるのは、彼らが説明責任を全く果たさず、国民の支持が政権交代にあったことだけを理由に数の力で押し切っていくとする姿勢が続いていることです。しかも、民主党の中から、説明責任を果たすべきだという声が誰一人聞こえてこない。私の所にはもっと政策の面で議論をすべきだという、心ない電話、メールやファックスが来ます。スキャンダルを追及するような国会質疑は無駄なのだという様な言い方です。その方々は為にする、組織的なメールだと思います。しかし、私が本当に考えて頂きたいのは、この問題は決して小さな問題では無いということです。政策云々言う前に、鳩山内閣、民主党政権の姿勢がそこに表れているのです。政策の問題をいう前に、政治家は国民との信頼関係が無ければ成り立ちません。

しかし、国民の信頼を裏切る行為が次々と発覚している。それについて、一切説明責任を果たそうとしない。これが民主党政権そのものなのです。これは鳩山さんや小沢さんだけではありません。その他にも様々な問題があります。国交省の箇所付けが国会審議より先に行われた問題、また、マニフェストが全く実行されない問題があります。こうした問題について、彼らはまともに説明責任を果たしたのでしょうか。こうした鳩山内閣の政治姿勢というのは、選挙で勝って政権さえ取れば、あとは数を持っているから押し通して行けばなんとかなる、というものです。そして、次の参議院選挙で勝ち抜けば自分達のスキャンダルも飛んでしまうのだと考えている。そうした彼らの本音が見え隠れしているのです。だからこそ私達は、この問題を風化させず、最後まで追及していかなければならないと考えています。

今週もしっかりがんばります。皆様方の御支援よろしくお願いいたします。ありがとうございました。